

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
声優実技研究Ⅰ	小松野 希海 他	単独	3単位	未来創造学科 1年次	前期	※				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
声優に必要な身体づくり、呼吸法、発声法、身体表現について実践的に学び、自らの声と身体を研究する中で、演技者としての基礎となる力を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション	シラバスを確認する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習	9	・身体表現①（『身体の動きの幅（大小、高低）』について研究する） ・演劇作品創作⑤	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	2	・演技者としての身体づくり①（『身体』について研究する） ・演劇作品創作①	教科書（上）の第1章、教科書（下）の第5章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	10	・身体表現②（『身体の動きの緩急（動止、遅速）』について研究する） ・演劇作品創作⑥	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	3	・演技者としての身体づくり②（『呼吸』について研究する） ・演劇作品創作②	教科書（上）の第2章、教科書（下）の第6章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	11	・身体表現③（『身体の動きと感情・呼吸の関係』について研究する） ・演劇作品創作⑦	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	4	・演技者としての身体づくり③（『姿勢』について研究する） ・演劇作品創作③	教科書（上）の第3章～第4章を読む	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	12	・身体表現④（『表情』について研究する） ・演劇作品創作⑧	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
授業の概要										
加瀬玲子先生の加瀬メソッドを参考に演技の基礎となる発声のための姿勢づくり、筋力づくり、呼吸法、発声練習、身体表現を通して、演技者としての基礎力を身につける。基礎力を養うための実践として、演劇作品を創作する。	5	・演技者としての身体づくり④（身体を使った『声のコントロール』について研究する） ・演劇作品創作④	教科書（上）の第5章～第6章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	13	・身体表現⑤（『声、身体のベクトル』について研究する） ・演劇作品創作⑨	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	6	・演技者としての身体づくり⑤（『発声に必要な筋力』について研究する） ・演劇作品創作⑤	教科書（上）の第7章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	14	演劇作品創作仕上げ	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	7	・演技者としての身体づくり⑥（『いろんな姿勢での発声』について研究する） ・演劇作品創作⑥	教科書（上）の第8章～第9章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	15	演劇作品発表	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	発表を経て、気づいたことをレポートにまとめる		
	8	・演技者としての身体づくり⑦（『身体ケア』について研究する） ・演劇作品創作⑦	教科書（下）の第7章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等	ヴォイステクニックの真実基礎編（上）呼吸・発声（オーム社）、 ヴォイステクニックの真実基礎編（下）滑舌・ストレッチ（オーム社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 発表 レポート	40% 40% 20%	出席、課題への積極的な取り組み 課題から学んだことを活かし発表する 発表から演技者として必要なものを考察する			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
声優実技研究Ⅱ	小松野 希海 他	単独	3単位	未来創造学科 1年次	後期	※				A B C E F
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
声優に必要な身体づくり、呼吸法、発声法、身体表現、演技の基礎について実践的に学び、自らの声と身体を研究する中で、演技者としての基礎となる力を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（授業計画など）	シラバスを確認する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	9	特別授業③（山口由里子講師）	山口講師より事前に与えられた課題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	2	特別授業①（藤本直樹講師）	藤本講師より事前に与えられた課題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	10	発声練習、演技基礎演習、芝居作品創作	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	3	発声練習、演技基礎演習、芝居作品創作	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	11	発声練習、演技基礎演習、芝居作品創作	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	4	発声練習、演技基礎演習、芝居作品創作	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	12	特別授業④（小森創介講師）	小森講師より事前に与えられた課題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
授業の概要										
演技のための身体づくり、呼吸法、発声法などについて学び、表現者としての基礎となる土台を築く。また、現役の声優音響監督等、実際の現場に立つ講師陣から、声優として必要なスキルや、声優業界についての知識や現状について実践的に学ぶ。演技力、表現力、本番感覚等、表現者として必要とされる総合的な基礎力を養うため、芝居作品を創作し、ステージ公演を行う。	5	特別授業②（櫻川めぐ講師）	櫻川講師より事前に与えられた課題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	13	発声練習、演技基礎演習、芝居作品創作	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	6	発声練習、演技基礎演習、芝居作品創作	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	14	芝居作品創作仕上げ	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備		
	7	発声練習、演技基礎演習、芝居作品創作	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	15	芝居創作作品発表	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	発表を経て、気づいたことをレポートにまとめる		
	8	発声練習、演技基礎演習、芝居作品創作	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等	ヴォイステクニックの真実基礎編（上）呼吸・発声（オーム社）、 ヴォイステクニックの真実基礎編（下）滑舌・ストレッチ（オーム社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	適宜、必要な資料を配布				平常点 発表 レポート	40% 40% 20%	出席、課題への積極的な取り組み 課題から学んだことを活かし発表する 発表から演技者として必要なものを考察する			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ボーカル実技Ⅰ	柴田 英次・小松野 希海	単独	2単位	未来創造学科 1年次	前期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
歌唱における発声の基本を学びながら、ポップス、映画の劇中歌、ロックなどの様々なジャンルの歌を、ソロボーカルで歌うことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（声の響き、リズム、呼吸、声帯のコントロールについて）	シラバスを読む	課題曲の練習	9	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：映画の劇中歌②）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	2	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス①）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	10	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：映画の劇中歌③）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	3	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス②）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	11	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ロック①）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	4	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス③）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	12	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ロック②）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	5	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス④）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	13	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ロック③）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	6	発声練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス⑤）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	14	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：選択曲）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	7	発声練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス⑥）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	15	まとめ（課題曲のソロ歌唱による試験）	試験で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	8	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：映画の劇中歌①）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		備考 ※声優コース必修				
授業の概要										
腹式呼吸、呼吸のコントロール、声の響き（共鳴）、声帯のコントロールなどについて学ぶ。様々なジャンルの歌に挑戦することで、表現力豊かに歌う力を身につける。										
教科書・テキスト等	プリント配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				平常点 課題発表 試験		30% 30% 40%	出席、課題への積極的な取り組み 授業を通して学んだことを活かし発表する 全授業を通して学んだことを活かし発表する			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ボーカル実技Ⅱ	村橋 和子・小松野 希海	単独	2単位	未来創造学科 1年次	後期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
歌唱の基本である呼吸法、発声法を学びながら、イタリア歌曲、童謡、唱歌、アニメソング、映画主題歌など、様々なジャンルの歌を、ソロボーカル、もしくは合唱で歌うことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（基本の呼吸法、発声法について）	シラバスを読む	課題曲の練習	9	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（童謡・唱歌）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	2	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（イタリア歌曲）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	10	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（童謡・唱歌）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	3	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（イタリア歌曲）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	11	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（アニメソング）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	4	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（イタリア歌曲）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	12	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（アニメソング）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	5	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（映画主題歌）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	13	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（アニメソング）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	6	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（映画主題歌）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	14	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（イタリア歌曲、アニメソング）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	7	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（映画主題歌）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	15	まとめ（課題曲のソロ歌唱による試験）	試験で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	8	発声練習、コンコーネ50番、課題曲（童謡・唱歌）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		備考 ※声優コース必修				
授業の概要										
腹式呼吸、呼吸のコントロール、声の響き、声の文えなど、歌唱の基本である身体の使い方について学ぶ。様々なジャンルの歌に挑戦することで、音程感、リズム感を養い、表現力豊かに歌う力を身につける。										
教科書・テキスト等	プリント配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				平常点 課題発表 試験		20% 40% 40%	出席、課題への積極的な取り組み 授業を通して学んだことを活かし発表する 全授業を通して学んだことを活かし発表する			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ダンス実技Ⅰ	長江 美佳	単独	1単位	未来創造学科 1年次	前期	※				AD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
体幹・体力づくり バレエ・ジャズダンスの基礎を学ぶ	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ①アイソレーション、ストレッチ			9	①+②+③+ ④基礎の応用				
	2	①+ ②体幹トレーニング、筋トレ・呼吸			10	①+②+③+④				
	3	①+②			11	①+②+③+④				
	4	①+②			12	①+②+③+④				
授業の概要										
自分自身の体を知り、ダンスを通して表現する力を広げる	5	①+②+ ③バレエ・ジャズダンス基礎			13	①+②+③+④				
	6	①+②+③			14	①+②+③+④				
	7	①+②+③			15	まとめ、発表				
	8	①+②+③			備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等				成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					まとめ・発表 平常点(態度)	50% 50%	学んだ成果を十分に発揮しているか 喜ぶ的に練習に取り組んでいるか			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ダンス実技Ⅱ	長江 美佳	単独	1単位	未来創造学科 1年次	後期	※				AD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
前期以上の体幹・体力づくり バレエ・ジャズダンスの基礎を続けつ つ、振付も学ぶ	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	・アイソレーション ・体幹 ・ストレッチ ・バレエ基礎 ・筋トレ これらを前期よりさらにパワーアップしてや			9	8に同じ				
	2	1に同じ			10	8に同じ				
	3	1に同じ			11	8に同じ				
	4	・ジャズダンスの振付に必要な体の使い方 ・簡単な振付			12	8に同じ				
授業の概要										
整え、強化した体を使い振付を踊る	5	4に同じ			13	8に同じ				
	6	4に同じ			14	8に同じ				
	7	4に同じ			15	まとめ、発表、テスト				
	8	発表、テストのための振付 ※場合によってはグループに分けて振付・発 表			備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等				成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					まとめ・発表 平常点(態度)	50% 50%	学んだ成果を十分に発揮しているか 喜ぶ的に練習に取り組んでいるか			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音声学Ⅰ	大塚 裕一	複数	1単位	未来創造学科 1年次	後期	※				A B C F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
日本語の発音がどのような仕組みで発せられているのか正しく理解し、さらにはその発音方法などを学び、音声についての基本的知識を身につける。基本的知識を得られた後に、自身や他者の発音についての特徴を正確に捉えるための技術を身につけ、国際音声記号を用いて様々な発音を記述できる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音声学とは？ ～発音を扱う分野と音声学に含まれる分野～	音声学という学問について調べておく	配布物（音声学）の理解をする	9					
	2	発声の仕組み ～発声のメカニズムと関連する器官～	発声の仕組みを事前に調べておく	配布物（発声の仕組み）の理解をする	10					
	3	母音の構音 ～日本語の「あ・い・う・え・お」の違い～	母音の出し方を事前に調べておく	配布物（母音の構音）の理解をする	11					
	4	子音の構音① ～子音の分類とその基準～	子音の種類を事前に調べておく	配布物（子音の構音①）の理解をする	12					
授業の概要	5	子音の構音② ～様々な子音の特徴～	子音の発声の仕方を事前に調べておく	配布物（子音の構音②）の理解をする	13					
我々は日常生活で普段意識することなくコミュニケーションの活動の中心として音声を使って自分の考えや思いを他者に伝えています。しかしそれがどのような仕組みで生み出されているのかほとんど考えたことがないと思います。この講義では、音声を使って自分の考えや思いを発する、いわゆる話すという行為がどのように生み出され、どのように伝わるのかを考えていきます。声優としての基本的知識として必要になる人間の発声メカニズムを学びます。	6	母音と子音を見る ～発声を見る!?, サウンドスペクトログラム～	サウンドスペクトログラムについて調べておく	配布物（母音と子音を見る）の理解をする	14					
	7	音のまとまりと規則性 ～音素と音声、音節とモーラ、調音結合を知る～	それぞれの用語の定義を調べておく	配布物（音のまとまりと規則性）の理解をする	15					
	8	韻律 ～アクセント、イントネーション、強調を知る～	韻律とはどのようなものか調べておく	配布物（韻律）の理解をする	備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等	なし			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	なし、資料配布				筆記試験	100%	内容の理解			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音声学Ⅱ	近藤 隆幸	単独	1単位	未来創造学科 1年次	後期	※				A
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音声で表現する活動に携わる者として、良い発音および良い声を自己の意識でコントロールできるように導く。意識的に細かいコントロールができるようになるためには、細かな差異を自覚、理解、分析して説明できることが必要。そのため、姿勢ごとの発声や発音の変化に対して気づきを促し、自身や他人の声を聴いて良い悪いを判断できるように、聴く耳を育てる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	自己の声の分析と他者への説明。音声学Ⅰでの学びと気づきをヒアリングし、現状を自覚するため教科書の短文ナレーション音読。	音声学Ⅰの復習	理解点と疑問点の整理	9					
	2	腹式呼吸の理解度を確認。各々の理解に基づき、良い腹式呼吸を意識して音読し、姿勢の影響について学ぶ。	音声学Ⅰにおいて学んだ腹式呼吸の仕組みを再確認	日常生活での姿勢を確認、意識する。	10					
	3	母音練習テキストを用いて響きの調整 声優養成スクールPineS教科書P21～22のテキスト使用。	教科書の下読み、漢字の読み方など確認	繰り返し音読することで、響きを均一にする意識づけ	11					
	4	子音含めた、か行、さ行、た行、な行の発音確認と響きの調整。 声優養成スクールPineS教科書P22～23	教科書の下読み、漢字の読み方など確認	繰り返し音読することで、響きを均一にする意識づけ	12					
授業の概要	5	子音含めた、は行、ま行、や行、ら行、わ行の発音確認と響きの調整。 声優養成スクールPineS教科書P22～23	教科書の下読み、漢字の読み方など確認	繰り返し音読することで、響きを均一にする意識づけ	13					
音声学Ⅰで学んだ発声や発音の理解度を確認し、各自の体格や姿勢に合わせて補足解説。五十音が等しくきれいに発音できる状態を維持し、その上で他者に聴かせる意識を持たせながら、朗読やナレーションの基礎に触れてもらう。	6	前回までの発声発音を維持し、朗読を通じて表現に昇華していく意識づけ。共演者の音を聴く意識づけ。	葉っぱのフレディを下読み確認	修正点をブラッシュアップして原稿を反復練習	14					
	7	同課題の後半部分を朗読者として作り込んでいく中、共演者の表現や声を聴く事にも注力する。	自己の表現欲求と課題テキストのすり合わせ	修正点をブラッシュアップして原稿を反復練習	15					
	8	課題原稿を全員で音読発表。 初回到音読した短文ナレーションも再度音読し、成長点や違いを自己分析する。	6回目と7回の復習と反復練習	様々な教材や原稿で、学んだ点を意識して音読	備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等	声優養成スクールPineS教科書(株式会社S), 葉っぱのフレディーいのちの旅(童話屋)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					理解度、学習態度	30%	音の違いを聴覚理解する姿勢			
					実技	30%	音読の完成度			
					成長曲線	40%	初回時との理解力や発信力の差			